

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	BINGO International School
施設所在地	葛飾区鎌倉4-28-15
法人名	BINGO International 株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

<テーマの設定理由>

園内では、窓から差し込む日差しや影、季節による光の変化に子どもたちが日々興味を示していました。「どうして影は伸びるの?」「虹みたいな色はどうやってできるの?」といった素朴な問いを起点に、身近な環境の中で“見える・変わる”を体験できるテーマとして「光」を設定しました。

また、ライトテーブルやクリスタルブロック等を用いて、透過・反射・屈折といった現象を安全に体験し、発見を電子黒板で共有・振り返ることで、探究が継続・深化するようにねらいました。

2. 活動スケジュール

- ・令和8年1月：園内の自然光を観察（影あそび／光の向き・強さの違い）。
 - ・令和8年2月：ライトテーブルで「透ける・重なる・変わる」を実験（色セロハン、クリスタルブロック等）。
 - ・令和8年3月：記録の見返しと共有（写真・子どもの言葉を電子黒板で整理し、“光のミュージアム”として表現）。
- （活動期間：令和8年1月～令和8年3月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・HIKARI to

Table（ライトテーブル）：透ける素材や色の重なりを安全に試せる環境づくり。

・BenQ 75型4K電子黒板 RP7504-2

壁掛け金具付き：発見（写真・動画・子どもの言葉）を全体で共有し、振り返りに活用。

・レインボークリスタルアクリルブロック：屈折や色の広がりを体験し、光の性質を探究。

・補助素材：懐中電灯、布、色セロハン、色水、スポット、トレー、画用紙、クレヨン等（観察・記録・表現に使用）。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

① 観察：朝夕の光、窓辺の影、反射する場所を見つけ、気づきを共有しました。

②

実験：ライトテーブル上で色の重なりや透け方を試し、クリスタルブロックで虹・光の広がりを体験しました。

③

記録：写真、子どもの発言メモ、描画（影の形・色の変化）で記録し、電子黒板で見返しました。

④

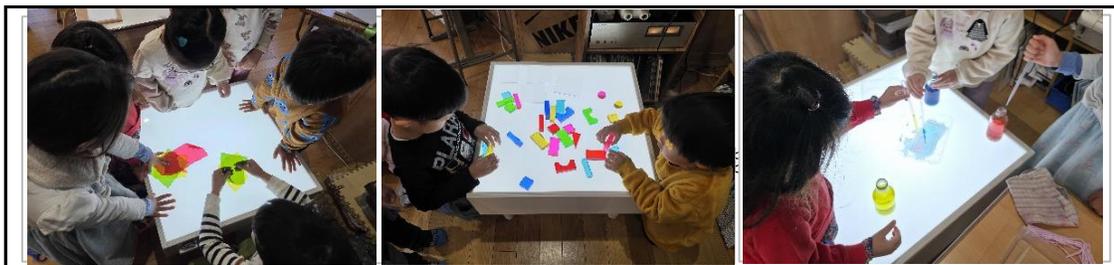
表現：発見をもとに「光のミュージアム（展示）」づくりを行い、子ども同士で説明し合いました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・「見て！ここがキラキラする！」「色が重なったら紫になった！」など、指差しや身振りを交えて発見を伝え合う姿が見られました。

・友だちの試し方をまねしたり、『次はこっちに置いてみよう』と提案し合ったりして、協働的に実験が進みました。

・保育者は、結果をすぐ答えずに『どうしてそう思った？』『別の置き方だとどうなる？』と問い返し、子どもの試行錯誤を支えました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・“光”は日常の中にあるため、子どもの問いが自然に生まれ、活動が継続しやすいことを再確認しました。
- ・写真と発言を残して見返すことで、子ども自身が『前はこうだった』『次はこうしたい』と振り返り、探究が深まりました。
- ・今後は、屋外（公園・散歩）での影の長さや季節変化も取り入れ、より多様な環境での探究につなげます。